

平成 27 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス						
教科目名	建築設計製図 I	担当教員	門脇和正(非常勤)	今田太郎	藤田大輔	未定(非常勤)
学年学科	3年 建築学科	通年	必修	4単位		
学習・教育目標	(D-4) 60% (E) 33% (B-2) 7%					
授業の目標と期待される効果： 建築設計は、複数の専門知識を統合して行われる作業である。また、設計条件によって計画も左右される。本演習では、概括的な総合能力を養うことを目的とする。 ①設計条件、社会的要請に応えることができる。 ②各種施設のプログラム（機能など）を構成できる。 ③的確に施設計画を計画できる。 ④計画内容を的確に伝え、表現することができる。		成績評価の方法： 総得点400点に占める得点率をもとに評価を行う；第一課題（100点）、第二課題（100点）、第三課題（100点）、第四課題（100点）とする。総合評価の重み付けは各課題の配点比に従う。ただし、一つでも未提出の課題がある場合は、不合格とする。また、課題提出は時間厳守とし、期限に遅れた場合は減点とする。				
		達成度評価の基準： ①課題にふさわしいコンセプトを作成できる。（6割以上） ②的確な機能・空間構成を行える。（6割以上） ③多角的な視点から、施設の機能、空間を検討し、創造的に組み立てることができる。（6割以上） ④明快かつ、美しいプレゼンテーションおよび説明によって、計画内容を相手に的確に伝えることができる。（6割以上）				
授業の進め方とアドバイス： ・課題の対象施設の様々な事例を、授業で示される例だけではなく、積極的に雑誌・資料集などにより調べる。 ・授業計画を基に、主体的にスケジュールを立て、授業時のエスキースチェックを参考にしながら着実に計画を進め、締め切り間際に作業が集中しないようにする。 ・常に図面やスタディ模型の作成などによって、考えを形にしていくこと。						
教科書および参考書：日本建築学会編 コンパクト建築設計資料集成（丸善）						
授業の概要と予定：前期						ALのレベル
第一課題：個人住宅（木造）の計画 担当：門脇和正						
第 1回：課題提示・説明						
第 2～7回：エスキースチェック1～6（コンセプト、平面図、立断面図）						C
第 8回：講評会・フォローアップ（課題を返却し解説および評価方法の説明を行なう）						A
第二課題：公共施設 担当：今田太郎						
第 9回：課題提示・説明						
第10回～14回：エスキースチェック1～5（コンセプト、平面図、立断面図）						C
第15回：講評会・フォローアップ（課題を返却し解説および評価方法の説明を行なう）						A
授業の概要と予定：後期						ALのレベル
第三課題：生活施設の建築 担当：藤田大輔						
第16回：課題提示・説明						
第17～21回：エスキースチェック1～5（コンセプト、平面図、立断面図）						C
第22回：講評会・フォローアップ（課題を返却し解説および評価方法の説明を行なう）						A
第四課題：集合住宅の計画 担当：未定						
第23回：課題提示・説明						
第24～29回：エスキースチェック1～6（コンセプト、平面図、立断面図）						B
第30回：講評会・フォローアップ（課題を返却し解説および評価方法の説明を行なう）						A

評価（ルーブリック）

達成度 評価項目	理想的な到達 レベルの目安 (優)	標準的な到達 レベルの目安 (良)	未到達 レベルの目安 (不可)
①	課題にふさわしいコンセプトを作成できる(8割以上)。	課題にふさわしいコンセプトの作成がほぼ(6割以上)できる。	課題にふさわしいコンセプトを作成できない。
②	的確な機能・空間構成を行える(8割以上)。	的確な機能・空間構成をほぼ正しく(6割以上)行える。	的確な機能・空間構成を行えない。
③	多角的な視点から、施設の機能、空間を検討し、創造的に組み立てることができる(8割以上)。	多角的な視点から、施設の機能、空間を検討し、創造的に組み立てることがほぼ(6割以上)できる。	多角的な視点から、施設の機能、空間を検討し、創造的に組み立てることができない。
④	明快かつ、美しいプレゼンテーションおよび説明によって、計画内容を相手に的確に伝えることができる(8割以上)。	明快かつ、美しいプレゼンテーションおよび説明によって、計画内容を相手に的確に伝えることがほぼ(6割以上)できる。	明快かつ、美しいプレゼンテーションおよび説明によって、計画内容を相手に的確に伝えることができない。